

アカマツの林地残材活用に関する意見交換会について

1 はじめに

花巻農林振興センターでは、アカマツ皆伐後の林地残材(以下「残材」という。)を燃料用チップとして活用するため、令和2年度から採算性検証事業(以下「事業」という。)を行っています。

令和4年6月13日に、残材利用の現状と課題に関する意見交換会を開催しましたので、その概要を報告します。

2 意見交換会の概要

意見交換会には、行政、森林組合、林業事業者、チップ生産事業者等25名が参加しました。

最初に、当センターが、事業内容の説明を行いました。

次に、事業で搬出集積を担当した森林組合と、破砕運搬を担当したチップ生産事業者が、作業にあたって気づいた点や課題を発表しました。

その後、国、県の職員から、各管内の残材利用の現状について情報提供が行われました。

最後に、残材活用に積極的な林業事業者から、残材の搬出事例が紹介されました。

3 意見交換の内容

事業では、アカマツ皆伐施業地において、残材の搬出・集積・破砕・運搬にかかる経費と生産性のデータから、残材活用時に採算が取れる条件を明らかにすることを目指しています。

今回出された主な意見は以下のとおりです。

- ・一貫作業、全木集材、集積土場の配置など、残材利用を見据えたシステムの構築が必要。
- ・岩手県では、松くい虫被害地でのアカマツの夏季伐採を禁止しているため、限られた期間で作業することが求められる。
- ・アカマツの枝条、伐根だけではなく、小径木や広葉樹までチップ化することで生産量が安定する。
- ・経営計画が立てられていない森林では採算があわないと思われる。

4 おわりに

アカマツ残材の活用は、資源の有効活用だけではなく、松くい虫被害対策の推進にも資することから、当センターでは引き続き取組を進めていきたいと考えています。



【会議の様子】



【参加者による意見交換】